

表2. 花粉および舌状の突起から得られた粉の発芽 (ロングウッドオオオニバス)

	培地中のシヨ糖濃度	
	3 %	15 %
花粉	十分に発芽	一部発芽
舌状の突起から得られた粉	一部星型に変形	一部星型に変形

1991年9月下旬から10月上旬にかけて調査。

を発芽したが、舌状の突起から得られた粉は発芽しなかった。なお、「一部星型に変形」とあるのは、実験開始時の観察に比較して48時間後に行った観察では星型の物質が多くなったような印象を受けたということである。

今回の実験および今森の観察を総合して考えると、舌状の突起から得られた粉が何であるかは明らかとならなかったが、少なくとも花粉または花粉の前駆物質ではないようである。

〈参考文献〉

Philip Swindells 1983. Waterlilies. Croom Helm Ltd.

今森光彦 1988. オオオニバスの不思議な授粉. アニマ6月号. 平凡社. 189:42-47

上野実朗 1978. 花粉学研究. 風間書房

大阪府立大学農学部園芸学教室編. 1986. 園芸学実験・実習. 養賢堂.

バニラ開花記録

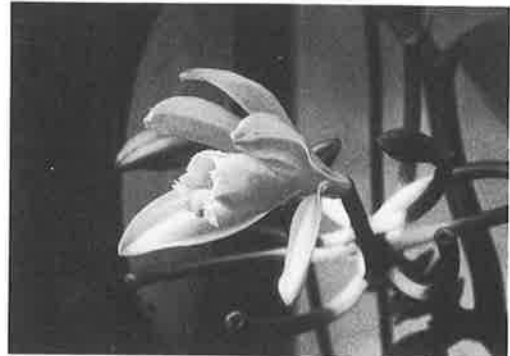
磯部 実, 田中真二, 柴田昌男

1987年春に大温室とスイレン温室にバニラ (*Vanilla planifolia*) を4株植栽した。そのうち大温室とスイレン温室の1株ずつが開花したので記録する。

大温室で開花した個体は、ヘゴに着生させて展示し、茎は約3m伸びている。1991年2月に1花序を形成しているのが確認でき、3月9日から開花を始め、4月5日まで1~3日毎に1~2花ずつ合計14花開花した(写真参照)。一方スイレン温室で開花した個体は、午前中の日光しか当たらない西面コンクリート壁面にはわ

せて着生させているが、この個体の茎は約3m伸び、花序を伸ばし、平成3年5月17日から6月15日まで計17花を開花した。

これら2個体とも、数花ずつの人工受粉を試みたが、結実は見られなかった。



バニラ